

圧送技術の腕競う

ヤマコン 技能五輪大会

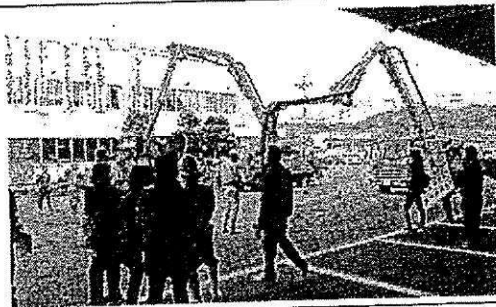
ヤマコン(本社・山形市、佐藤隆彦社長)は10日、山形市内の本社敷地内で圧送技能五輪大会を開いた。各地の営業所から参集した技能者が、ブーム操作と配管の2部門で技術を競った。

同大会は、技能研鑽(さん)による全社的な技術力の向上と、職員および家族の耐勞・懇親を目的に毎年開いていた。東日本大震災の影響でこの2年間は見送ったが、震災対応で多忙な時期だからこそ社員

が一堂に会する機会をつくりたいとの思いから、例年より規模を縮小して3年ぶりに開催した。

この日は東北と関東、新潟の各事業所から2部門あわせて約30人の技能者が出場。同社役員や来賓、家族らが見守る中、ブーム操作部門では、ポンプ車の点検から、5カ所に設置した目標のペットボトルを倒す操作の正確性など、配管部門では配管を運ぶ際の安全性や概略図面のとおり

職員、家族らが競技を見守った



組み立てる手際とその早さを競った。

競技は、技能に優れた社員が認定される「マイスター」

の審査の下、2人1組で行われ、ベテランの卓越したスキルや若手の奮闘に会場から大きな拍手や歓声、時に野次が沸き起こるなど、和気あいあいとした雰囲気の中で、真剣勝負が繰り広げられた。

競技終了後には、屋台でつくられたB級グルメの数々が振る舞われたほか、レクリエーションやビンゴゲームなどのアトラクションで盛り上がった。

大会の進行役を務めた鈴木悦敏常務は「技術の披露会であり、よい部分をぜひ参考にしたい。職員や家族が一堂に集つ場として今後も開いていきたい」と語った。